VAPE(電子タバコ)消費者動向調査レポート(2025年)

未来煙株式会社

調査概要

本調査は、日本国内における VAPE(電子タバコ)の利用実態や消費者の意識を明らかにすることを目的として実施しました。具体的には以下の観点を重視しています。

- 1. 利用実態の把握**
VAPEの使用率、紙巻タバコや加熱式タバコとの併用状況、デバイスの種類、月間支出額などを明らかにし、生活の中でどのように取り入れられているかを確認。
- 2. 購買行動・意思決定要因の特定**
消費者がどこでVAPEを購入し、購入時に何を重視しているのか(価格・味・安全性・デザインなど)を把握し、購買意思決定の構造を明確化。
- 3. 嗜好トレンドの把握**
人気のフレーバーや試してみたいフレーバーを通じて、今後の市場ニーズや開発の方向性を探る。
- 4. 満足度と利用意向の分析**
VAPE利用者がどの程度満足しているのか、今後も利用を継続する意向があるのかを明らかにし、長期的な市場定着性を検証。
- 5. 不安・懸念点の把握**
健康・規制・コストなど、利用を妨げる要素を抽出し、今後の市場成長におけるリスクと課題を提示。

調査方法

1. **調査手法**
インターネットアンケート調査
2. **調査対象**
全国在住の20～50代を中心とした男女 (VAPEを利用している/過去に利用していた人物を対象として調査)
3. **調査期間**
2025年7月～2025年8月実施
4. **回答数**
有効回答 100件
5. **設問内容**
利用実態、購入行動、フレーバー嗜好、満足度、利用意向、不安点など

エグゼクティブサマリ

1. **VAPEは利用経験者が過半数、現在利用は54%**
節煙や禁煙補助としての利用が多く、生活習慣の一部として定着しつつある。
2. **紙巻タバコ・加熱式との併用が主流**
完全移行層だけでなく、従来の喫煙習慣と併用するユーザーも多く確認された。
3. **支出は月3,000～5,000円が中心**
日常的な嗜好品として継続可能な価格帯で利用する層が厚い。
4. **購入チャネルは二極化**
公式オンラインストア25%、コンビニ25%と拮抗。利便性派と体験派が共存。
5. **フレーバーはメンソール優勢、フルーツが拡大**
37.1%がメンソールを好み、次いでタバコ系4.7%、フルーツ系19.1%。新しいブレンドへの期待も高い。
6. **満足度は高く、今後も継続意向が多数**
利用者の多くが「満足」と回答し、禁煙サポートやリフレッシュ手段として継続利用を望む声が過半数を占める。
7. **健康・規制・コストが最大の懸念**
将来の健康影響や規制強化への不安、消耗品コストの負担が市場拡大の課題として浮き彫りになった。

利用者はポッド型・使い捨て型デバイス中心

- 使用デバイスはポッド型や使い捨て型が主流。
- 手軽さ・入手性が利用理由であり、リピーター育成には「ランニングコスト」や「カートリッジ供給体制」の安定が重要。

購入チャネルはオンラインとコンビニで二極化

- 公式オンライン25%、コンビニ25%、ECモール20.5%、専門店19.3%。
- 利便性重視のオンライン派と体験重視の実店舗派が共存している。

VAPE関連支出は月3,000～5,000円が最多

- 支出額は「月3,000～5,000円」が最多。
- 日常的な嗜好品として「月数千円」のレンジが市場のボリュームゾーン。価格設計とサブスク型施策の親和性が高い。

購入時は味・価格・安全性が重視される

- 最重視ポイントは「価格」が最多で、次いで「フレーバーの豊富さ」「ニコチンの有無」。
- 消費者は「美味しさ」と「手頃さ」を優先しつつ、ニコチンの有無への意識も高い。

情報源はSNS・口コミが中心

- SNS・口コミ・レビュー記事が情報収集の中心であり、マスメディアの影響は限定的。
- UGCの影響力が大きく、インフルエンサーや体験レビューが購買を左右する。

吸い始めた理由は節煙と興味・トレンド

- 「禁煙・節煙のため」「興味・トレンド」が利用開始の主要動機。
- 健康訴求とライフスタイル訴求、両面でマーケティング余地がある。

利用満足度は高く、多様な理由で支持

- 満足度は「満足」「やや満足」が過半数を占める。
- 理由は「味の豊富さ」「禁煙補助」「使いやすさ」と多様であり、ユーザーごとの期待値に応じた価値訴求が求められる。

継続意向は過半数以上、ライフスタイルに定着

- 「今後も継続したい」と回答した人が過半数を超える。
- 一過性ではなくライフスタイルに定着傾向が見られる。

健康・規制・コストが三大懸念

- 懸念点は「健康影響」「法規制」「コスト負担」が上位。
- 安心感と透明性が市場成長の前提であり、安全性の裏付けや情報発信が不安払拭に直結する。

直近購入はフルーツ系とメンソールが人気

- 直近の購入はフルーツ系とメンソール系が中心。
- リフレッシュ系が消費者に選ばれており、トレンドの主軸となっている。

最も好まれるフレーバーはメンソール37.1%

- 好きなフレーバーは「メンソール系」37.1%が最多。次いで「タバコ系」24.7%、「フルーツ系」19.1%。
- 清涼感ニーズが強く、従来喫煙者層からの支持も厚い。

試したいフレーバーはフルーツブレンド系に注目

- 試したいフレーバーとしてフルーツブレンドや清涼感の強いタイプが多い。
- 新しいフルーツ系開発や期間限定フレーバーへの期待が大きい。

まとめ

本調査から、日本国内のVAPE市場はすでに「日常の選択肢」として一定の定着を見せていることが明らかになりました。利用者の過半数は禁煙や節煙を目的にしながらも、同時に多様なフレーバーを楽しむ嗜好性を重視しておりVAPEは実用性と趣味性を兼ね備えた存在として拡大しています。

購買行動を見ると、購入チャネルは公式オンラインストアとコンビニが拮抗し、利便性を求める層と実体験を重視する層が共存していました。支出額は月00～5,000円程度に集中し、価格的に続けやすい領域にあることから、継続利用を前提としたサブスクやまとめ買い施策との親和性が高いと考えられます。

満足度は概ね高く、多くの利用者が今後も継続を希望しておりVAPEは一過性のトレンドではなくライフスタイルの一部へと進化しています。その一方で、紙巻や加熱式との「併用」が多く見られる点は、日本市場ならではの特徴であり、完全移行には依然として課題が残っています。

フレーバーに関してはメンソールの強い支持が続く中で、フルーツ系の人気が拡大しており、新しいブレンドや清涼感への期待も大きく、今後の商品開発に直結するインサイトが得られました。

しかし、健康影響や規制、コスト負担への不安は依然として強く、安心感のある製品設計と透明性の高い情報提供が市場拡大の前提条件となっています。

総じて、本調査は「嗜好性と実用性の両立が市場成長を支えている一方で、安心と信頼の確保が次の成長の鍵である」ことを浮き彫りにしました。

本データのご利用にあたっての注意事項

1. 本資料に掲載されたデータや内容は、未来煙株式会社が実施した独自調査に基づくものです。
2. 本調査結果は統計的な傾向を示すものであり、すべての利用者の行動や意識を代表するものではありません。
3. 本資料の内容を引用・転載する場合は、必ず出典として「未来煙株式会社『APE(電子タバコ)消費者動向調査レポート2025年』」を明記してください。
4. 本資料に記載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、利用者が本情報を用いて行う判断・行動については当社は責任を負いかねます。
5. 本資料の一部または全部を、営利目的で二次利用することはご遠慮ください。